

10月月例労働経済報告のポイント

一般経済

○ 景気は、このところ足踏み状態となっている。また、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。

- ・輸出は、このところ弱含んでいる。生産は、弱含んでいる。
- ・企業収益は、改善している。設備投資は、持ち直している。
- ・企業の業況判断は、改善している。ただし、先行きについては慎重な見方が広がっている。
- ・雇用情勢は、依然として厳しいものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・個人消費は、持ち直している。
- ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。

○ 先行きについては、当面は弱めの動きも見込まれるものの、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待される。一方、海外景気の下振れ懸念や為替レート・株価の変動などにより、景気がさらに下押しされるリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

労働経済

○ 労働経済面をみると、雇用情勢は、依然として厳しいものの、このところ持ち直しの動きがみられる。

- ・ 8月の完全失業率（季節調整値）は5.1%で、2ヶ月連続で前月差で低下（0.1ポイント低下）。
- ・ 就業者数（季節調整値）は6,245万人で、3ヶ月ぶりに前月差で減少（1万人減）。
- ・ 雇用者数（季節調整値）は5,451万人で、3ヶ月連続で前月差で増加（5万人増）。
- ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.54倍（前月差0.01ポイント上昇）。
- ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、0.88倍（前月差0.01ポイント上昇）。
- ・ 現金給与総額（原数値・確報）は275,060円で、前年同月比0.4%増。